

補助事業番号 25-1-119
補助事業名 平成25年度 学術・文化の振興のための活動 補助事業
補助事業者名 公益財団法人 中近東文化センター

1 補助事業の概要

(1) 事業の目的

トルコ共和国の中央部に位置するカマン・カレホユック遺跡には、古代オリエント世界の歴史そのものが凝縮されている。この遺跡における発掘調査を通し、世界の共有財産である文化財遺産の発掘調査、修復・保護を実践することにより、世界の考古学・歴史学に寄与するのみならず、グローバルな視点に立った日本の文化行政を考えることのできる研究者を養成し、もって公益の増進に寄与する。

(2) 実施内容

① 考古学の発掘調査研究者養成（現地）

http://www.jiaa-kaman.org/jp/excavation_kl_28.html

平成25年度学術・文化の振興のための活動補助事業は、主に第28次カマン・カレホユック発掘調査（6月24日～9月6日）、および第5次ヤッスホユック発掘調査（9月2日～11月2日）と併行して行なった。若手研究者や学生の教育プログラムである考古学フィールドコースは、第1回を8月12日～24日、第2回を9月9日～21日のスケジュールで開催し、日本から9名の学生が参加した。



カマン・カレホユック遺跡発掘現場

現地の発掘現場での実習では、遺跡の層位の見方、出土遺物の取り上げ方、取り上げ時点から保存処理を行う方法など、具体的な指導が続くが、それだけでなく、現地作業員との交流、海外の専門家からの直接の指導など貴重な経験を積むことができる。また、研究所内の収蔵庫や保存修復室でも専門家からの講義が行われた。

学生たちはコース期間を通して、選択した特定の遺物をテーマに研究を行い、コース最終日にはその結果を発表する。同コースでは、研究所に隣接するカマン・カレホユック考古学博物館（外務省ODAにより建設）でも授業を行った。博物館では、カマン・カレホユック遺跡から出土した遺物を展示しており、オスマントルコ時代から前期青銅器時代まで、順を追ってアナトリアの歴史を体感できる展示となっている。

若手研究者、学生たちにとっては、歴史の流れを俯瞰し、また実際に発掘現場から取り上げられた遺物が、保存修復され、調査研究を経て、博物館に展示されるまでの一連の工程をイメージすることができる場であったと思う。どの工程も大切なものであり、それらを経てこそその展示である

と学んだことは、学生自身の今後の研究活動、文化財の保存活動に大きな影響を与えるものとなるであろう。



考古学フィールドコース
遺物実測の授業



考古学フィールドコース
最終日の研究発表

②調査報告会の開催

http://www.jiaa-kaman.org/jp/conference_2013_2_1.html

当該年度は、下記のような日程でトルコ調査報告会・研究会を行った。

12月22日 2013年度トルコ調査報告会

12月23日 第24回トルコ調査研究会

会 場： 三鷹市芸術文化センター（東京都三鷹市）

12月22日、2013年度トルコ調査報告会として発掘調査の成果を報告し、同23日、第24回トルコ調査研究会では、当該年度の研究成果の発表とともに、昨年度非常に重要なテーマとなったカマン・カレホック出土の鉄資料について、引き続き研究成果が発表された。

この鉄資料は、注目度の高いテーマであり、今後も継続して研究発表していかなければならないものとする。

当該年度の「報告会・研究会」は、初めて会場を三鷹市芸術文化センターに移し行ったが、会場が講演会などの専用会場であり、交通の便がよいこともあり、たいへん多くの方々にご参加いただいた。研究者やマスコミ関係者だけでなく、地元の方々、また遠くからの一般参加者もおおり、当研究所の活動をより広く知ってもらうことができたと感じている。



2013年度トルコ調査報告会



第24回トルコ調査研究会

2 予想される事業実施効果

①考古学の発掘調査研究者養成（現地）

本補助事業に参加した若手研究者、学生たちは、例年、日本の発掘現場に戻るものが多い。

考古学フィールドコースにより修得した「文化財保存・修復」技術は、日本国内の現場に活かせるものであり、今後の日本における「文化財保存」の重要な一翼を担っていくものと考えている。また、フィールドコースに参加した学生たちにとって、地元の発掘労働者や学生たちとの交流、欧米の研究者や研究者を目指す学生たちとの議論の場は、非常に刺激的で貴重な体験であったことと思う。

ここでの経験を元に、自らの研究の姿勢や将来の進路を考える切っ掛けを手にした学生も少なくない。

今後は、参加した若手研究者や学生の多くが当該事業で得たものを生かし、国内の発掘現場や大学、研究機関において、文化財の保存修復の現場をリードしていく存在に成長していくことが期待される。

②調査報告会の開催

「報告会・研究会」では、発掘調査に関わる研究者、特に若手の研究者に発表の機会を与えている。若手の発表の場は多いとは言えない現状であり、その中で当該事業の果たす役割は大きく、今後の若手の成長に必ず役立つものとする。

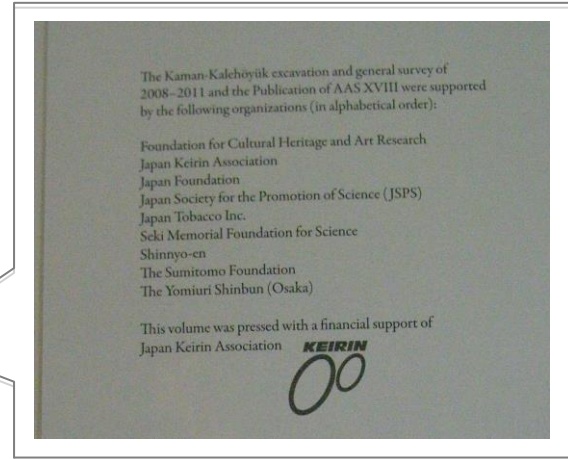
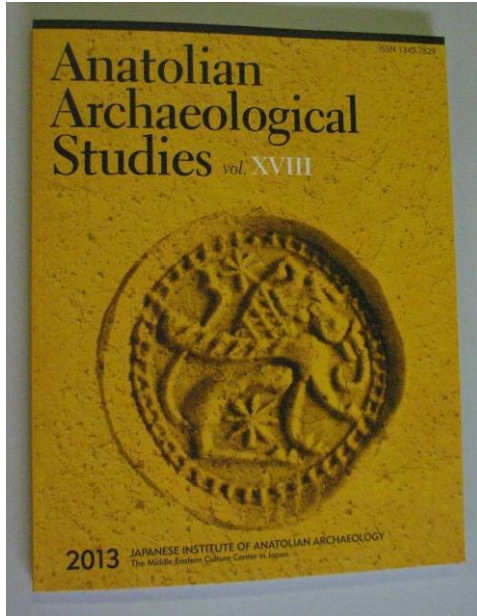
参加者の多くは一般の人々であり、その比率は年々増していると言える。近年では、地元周辺（三鷹市、武蔵野市等）からの参加者はもとより、都内近郊、さらには地方からの参加者もあり、毎年開催してきた当該事業が一般の方々にも浸透してきたと実感できる。

また、その年の発掘報告、研究発表を「報告会・研究会」として毎年欠かさずに行ってきたからこそ、現在マスコミの注目を集めるほどに成長できたのだろう。

当該事業は、一般の方々、マスコミの注目を集めることで、古代の中近東のみならず、現代の中近東にも人々の目を向ける効果も生んでいるのではないかと考える。

3 本事業により作成した印刷物等

学術雑誌 Anatolian Archaeological Studies (AAS) Vol. 18

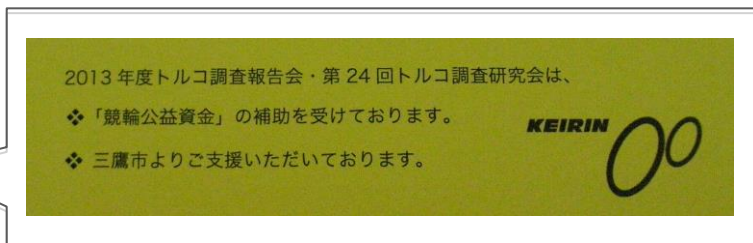
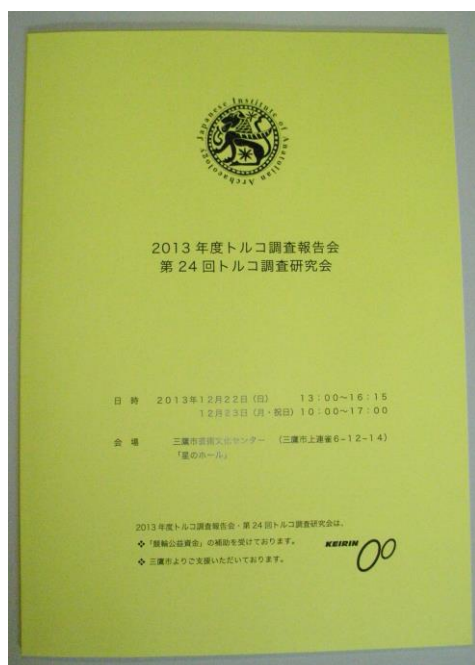


AAS Vol. 18 奥付

CONTENTS		
9	Katsutoshi FUKUDA, Kazuhiro KUMAGAI, Kaoru KASHIMA	Geophysical Survey at Yasshöyük in 2011
15	Mark WEEDEN	A Probable Join to the "Kırşehir Letter"
19	Mark WEEDEN	A Hittite Tablet from Büklükale
37	Mamoru YAMASHITA, Hiro'omi TSUMURA, Yuichi S. HAYAKAWA, Mustafa METIN	Archaeological Surveys at Hacıtuğrul Höyük in Central Anatolia
43	Matahisa KOITABASHI	An Incised Scapula from Kaman-Kalehöyük A Musical Scraper?
49	Alice Boccia PATERAKIS	Conservation Director's Report: 2008 Season
53	Alice Boccia PATERAKIS	Conservation Director's Report: 2009 Season
59	Melissa L. MARIANO	Preventive Conservator's Report: 2009 Field Season
67	Jessica ARISTA	The Effect of Consolidation on the Anatomical Structure of Floated Charcoal Remains at Kaman-Kalehöyük
73	Colleen HEALEY	Field Conservator's Report: 2009 Season
83	Ida POHORILJAKOVA, Sara A. MOY	A Re-evaluation of Adhesives Used for Mending Ceramics at Kaman-Kalehöyük: A Final Assessment
93	Anna SHEPHERD	Field Conservator's Report: 2010 Season
103	Sofia LO BIANCO	Developing a Risk Assessment for the Japanese Institute of Anatolian Archaeology
109	Tessa DE ALARCÓN	A Comparative Study of Corrosion Inhibitors for the Treatment of Archaeological Copper and Copper Alloys
121	Corinna L. KOCH DANDOLO	Cyclododecane Applied on Archaeological Materials: Sublimation Rate Increase by Mean of Fume Cupboard
133	Caroline I. ROBERTS	Emergency Response Plan: To be Used in the Event of an Emergency or Disaster, for the Japanese Institute of Anatolian Archaeology and the Kaman-Kalehöyük Archaeological Museum

AAS Vol. 18 目次

資料集 『2013年度トルコ調査報告会・第24回トルコ調査研究会』



4 事業内容についての問い合わせ先

団 体 名： 公益財団法人 中近東文化センター

(コウエキザイダンホウジン チュウキントウブンカセンター)

住 所： 〒181-0015

東京都三鷹市大沢3-10-31

代 表 者： 理事長 阿部 知之 (アベ トモユキ)

担 当 部 署： アナトリア考古学研究所 (アナトリアコウコガクケンキュウジョ)

担 当 者 名： 事務担当 吉田 知子 (ヨシダ トモコ)

電 話 番 号： 0422-32-7665

F A X： 0422-31-9453

E - m a i l： tokyo@jiaa-kaman.org

U R L： <http://www.jiaa-kaman.org/>